

2008/12/02

集団の流れに乗れない子どもの特性理解と 行動改善に向けた具体的・実践的アプローチ

～ 就学相談・学校園連携・保護者対応を視野に入れて ～

白ゆり保育園 副園長 石原 忍

集団の流れに乗れない子ども

- (1) 場の状況や指示が理解できない子ども
(見えない・聞けない子ども)

- (2) 不適応行動としての行為
(叱っても効かない わざとやってる子ども)

- (3) そうしないと いられない子
(器質性の問題 多動性の子ども)

(1) 場の状況や指示が理解できない子ども

(見えない・聞けない子ども)

- ・ 多すぎる情報量 (カクテルパーティー効果)
- ・ 筆記体の英語は読めない (選択的注意力／慣れ)
- ・ 「広汎性発達障害＝視覚支援」の落とし穴
- ・ 行動の最近接領域 継次処理の得意な子
- ・ 物理的な構造化 → 時間的・内容的構造化
(わかりやすい・変えない・やってみせる・積み上げる)
- ・ 「よけいな支援」「マイナス行動の強化」
「特別扱い」は、子どもをダメにする
- ・ それでもわからない子 (短所矯正 → 長所活用)
- ・ 可能な限りみんなと過ごす時間を大切に

(2) 不適応行動としての行為

(叱ってもきかない わざとやっている子ども)

不適応行動を起こし、その行動を維持させる要因

ア 注目の獲得 (回避)

イ 事物の獲得 (回避)

ウ 自己刺激行動・内的な興奮

不適応行動を消去する方法 ①（叱ってもきかない子）

原則 = 無視をする 構わない 迎合しない
そっとしておく クールダウンする
適切な行動を指示し、適切な距離を置く
容認できない行為は、だまって制止する

不適応行動に替わる 適切な行動を示す
最初は手厚い支援を添えて達成させる
その後、徐々に支援をフェードアウトする
支援なしでできるようになった子をほめる

不適応行動を消去する方法 ②（叱ってもきかない子）

状況の分析 → 何が子どもをそうさせるか？

地雷を踏まない

快適な環境づくり

未然に防ぐ手立て

- ・ 記録(メモ)を重ねる 視点＝多面的に、客観的に
(家庭状況・体調・特性・関係・・・)

- ・ 先行条件を見つめる 子どもに寄り添って
指導者・支援者として

不適応行動を消去する方法 ③（叱ってもきかない子）

自己刺激行動（内的興奮への対処法）

自己刺激行動の理解

その子にとって、脳内に内的な高まりを生じさせ、

脳神経に快刺激をもたらす行動

（水遊び 性器いじり 移行対象としての愛着行動

ロッキング 大声で叫ぶ 手のヒラヒラ行動 ）

制止し、別の行動（代替・対立・低頻度・他行動）を強化

不適応行動を消去する方法 ④（叱ってもきかない子）

学級担任として 心得ておくこと

学級担任としての最大の指導性は、
見通しをもち、学級のモラルと方向感を支えていくこと

- ・ 個への過剰反応は、集団の方向感を失わせる
- ・ 個別対応には、まず周囲の信頼感が不可欠
- ・ 学級が崩れて一番痛むのは、支援が必要な子

例) 運動会での鮮やかな切り返し ミニ先生の育成

不適応行動を消去する方法 ⑤（叱ってもきかない子）

子どものストーリーに寄り添うこと

〈テクニカルな視点〉

指導前・指導後には、ベースとなる基礎理論をもとに記録の整理や分析、今後の対応などについて見つめ直す（本質が見えてくることがある）

〈ファンダメンタルな視点〉

日常生活の中のリアルな営みを、すべて分析することは不可能

自分自身の長所や持ち味・ストレングスを生かし子どもの真正面から向き合うことが、すべての基本

(3) そうしないと いられない子

(器質性の問題・多動性の子ども)

① 医療機関、関係機関との連携

- ・ 子どもを育てるプロは、学校・園の先生である
(医療との連携は、出発点にしか過ぎない)
- ・ クスリを飲んで落ち着いても、それが子どもの育ちにつながらなければ、親は喜べない。
- ・ 診断で子どもの可能性を決めつける事ほど、保護者の心を痛めるものはない。
- ・ 認知面の全面発達、発想の転換で子どもの特性を活用し、自己有用感を高める → 行動改善

(3) そうしないと いられない子 (多動性の子ども)

② 保護者連携・保護者支援

- 主体者としての保護者を尊重する感覚
- 生涯その子に寄り添うのは家族だけ
- 保護者にしか知らないこと、保護者にしか出来ないことがある
- 担任以外のキーパーソン(副担任・コーディネーター・主任・生徒指導)
- ABA(応用行動分析)は、保護者対応にも使える

例) ある保護者の方との壮絶なバトルの末に・・・

(3) そうしないと いられない子 (多動性の子ども)

③ 就学相談(学校・園連携)

- 就学は、選択ではなく、創造である。
- 就学にかかわる情報量の貧弱さが誤解を招く
- 担任の先生の先生が、直接動くインパクト
- 小学校の参観日に行ってみよう

行動改善にかかわる事例・エピソード

- 先生のオーラを感じてゆれる子ども
- 参観日に泣いたりよう君
- 運動会での見事な先生の支援
- 「あなたがいるから1年B組」 太郎君を変えた先生のまなざし
- 修学旅行の時の座席を決めよう（学級活動）
-
-
-

子どものプラスイメージを育む 理解と支援 行動改善に不可欠な 自己イメージの向上に向けて

- (1) すぐほめる (即時強化＝手応え・見てわかる評価)
- (2) ちょっと待ってほめる (遅延強化＝内発性を育てる)
- (3) じらしてほめる (間欠強化スケジュール)
- (4) 学級集団の中でのほめる時の配慮 (個と集団)
- (5) 見え方・わかり方の特性を理解した支援・指導
こつこつタイプ(継次処理) / 感覚タイプ(同時処理)
- (6) 得意な方をメインにして、苦手なことを補助刺激に
(聞く・見る・読む・書く・話す・感じる・動く・・・)
- (7) 子どもにまちがえさせないエラーレスな活動と学習
- (8) 最初は支援をたっぷり (フルプロンプト)
- (9) 落ち着かせることが目的ではない 育てることが目的である
(段階的なプロンプトフェーディング)
- (10) ごほうびも段階的に(物→活動→賞賛→自己目標・自己強化)
- (11) 自己の課題となる面の受け入れ (肯定的な自己理解)

具体的な実践例などは、ブログで詳しく紹介しています。
関心のある方は、ぜひ一度ごらんください。

「どの子ども伸びる どの子ども伸ばす」 <http://shinobu1.blog117.fc2.com/>